



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2017.9) 平成28年度:65.

開頭手術における体内異物遺残防止のためのベンシーツ®カウント確立
に向けての取り組み

玉置 渉, 山田 絵理, 山近 真実, 黒澤 温, 平田 哲

開頭手術における体内異物遺残防止のためのベンシーツ®カウント 確立に向けての取り組み

旭川医科大学病院 ○玉置 渉 山田 絵理 山近 真実 黒澤 温 平田 哲

【はじめに】

A病院ではベンシーツ®カウントを実施していたが、使用数が多い開頭術ではカウント不一致となり検索が困難な場面があった。さらに、再開頭の患者からベンシーツ®が発見されたことから手術室看護師と脳神経外科医師で再発防止策を話し合い、体内異物遺残防止に取り組んだため結果を報告する。

【方法】

手術室看護師と脳神経外科医師でベンシーツ®カウント方法を見直し、シミュレーションを行った。

【結果】

ベンシーツ®は不透過線の有無とサイズを執刀医に確認し術野に最小限の枚数出す。

カウント方法は術野のベンシーツ®を器械出し看護師が術野外の外回り看護師に受け渡し、サイズ毎にカウントする。また、カウントのタイミングは顕微鏡操作開始前、操作中一時間毎、硬膜縫合前、皮下縫合前、手術終了後とし、医師はカウント一致まで硬膜縫合をしない事とした。

そして、不透過線入りベンシーツ®でカウント不一致の場合は閉頭前にX線撮影で確認する事とした。

【考察】

カウント方法を見直した結果、カウントの確実性が高まり、不透過線入りのベンシーツ®を使用する事により体内異物遺残防止につながると考える。